

玄々堂木更津クリニック増改築 CT装置設置・待合室拡張

玄々堂木更津クリニックは、平成五年九月九日に慢性腎不全治療を主とした内科・外科のクリニックとして開院した。その後平成八年四月、二階に透析患者監視装置三十台を増設し拡張している。現在約百六十名の患者さんが透析を受けているが、年々増え続ける当地域の透析患者さんがより良い治療を受けられるように、今回増改築が行われた。



増改築が行われた玄々堂木更津クリニック

今回の玄々堂木更津クリニック増改築の内容は、まずCT装置の設置である。これにより、当クリニックでもCT検査を受けられることになり、今後の治療に大いに役立つと思われる。そして外来待合室の改修・一階二階透析患者さん待合室も拡張整備された。今までの混雑も解消されると考えられる。その他に医局室の拡張、及び二階に倉庫が新設され、各部署の書類等の保管場所として使用する予定である。増改築完成後は検査関係、待合室等の内容が一新され、一層の充実が図れるものと思われる。

居宅介護支援事業者 当院指定を受ける

介護保険法による介護サービスを受けるためには、要介護認定をされた上で、「居宅サービス計画」を作成する必要がある。この居宅サービス計画を立てる事業者を「居宅介護支援事業者」といい、玄々堂君津病院、君津訪問看護ステーション、木更津訪問看護ステーションは、千葉県から指定を受けた。居宅サービス計画は、その

ボウリング大会で健闘!

三月二十六日千葉リバーレーンにて、第二十九回千葉県健康保険組合ボウリング大会が開催され、当院からは個人戦団体戦へ十名の選手が参加した。団体戦では、好調な滑り出して前半折り返したが、結果は二十九チーム中十八位であった。個人戦では、関根明放射線技師長が入賞は果たせなかったものの、一般男子の部で栄えあるハイスコア



ハイスコア賞をとってニコリ!

賞(二百三十九ピン)を勝ち取った。選手達は、心地よい汗を流し、運動不足とストレスの解消に良いとボウリングを満喫していた。

フードサービスの現状

栄養科長 城之内清美



病院食に入院時食事療養制度が新設され、患者さんの自己負担が導入されてから六年目を迎えます。この間多くの病院で質の向上を図ろうと、様々な努力

を重ねています。以前は、病院の食事は「早い・冷たい・まずい」が世間一般の評価でしたが、この制度の導入により、病院の食事が大きく変わってきました。病院の食事は医療の一環であり、医師の指示に基づき患者さんの病状に応じた適切な食事を給与する事により、疾病の治癒または、病状の回復促進を図ることを目的にしており、患者さんに安心しておいしく食べていただくことを基

本としています。そのため、病院食を作る心得・調理技術の習得・病態栄養等の定期的な勉強会や、院内栄養管理委員会において、他部署と共に病院食についての検討を行ってまいります。また病棟訪問や患者さんへのアンケートから得た声を基に、おいしく喜んで食べていただけるよう努力しています。当院では、昭和五十九年に夕食六時配膳の実施、平成四年には冷蔵配膳車を利用した適温配膳を開始しました。さらに平成六年には数種類のメニューから患者さんを選んでいただける選択食を開始

し、質の向上に務めました。また入院中は食事が楽しいものになるように、行事食にカードを添えたり、食札への献立名・栄養価の記載を行っております。昨年から始めた「手作りパン」も患者さんから好評を頂いています。食欲のない人、食習慣の異なる人、病状の異なる人など栄養状態も様々ですが、今後も患者さん一人一人に対応したメニューで、おいしい料理をサービスしていきたいと考えています。また、病院の食事から、生命の源である「食」の大切さを認識していただきたいと思います。

介護保険導入のため 学習会開催

昨年の十月二十九日と十一月五

第十二回 院内看護研究発表会開催

二月二十七日、院内看護研究発表会が開かれ、五題の研究発表があった。その中でもナースエイドの発表は初めてであり、内容は「ナースエイド業務の変遷と今後の課題」と大変パワフルな発表であった。



先輩からIVHの説明を真剣にまなざしで聞く新入職員

新入職員 オリエンテーション行われる

二月三日、院内の婦長・主任、二十一人の参加により、目標管理についての研修が行われた。看護部の職員一人一人が目標を持ち、意欲的に仕事に参加するためにはどうしたらよいか、婦長・主任の成果責任を文章化する作業がグループワークを中心に行われた。大変白熱した意見交換が運くまで交わされた結果、目標が明確となり意味のある研修となった。

看護部管理研修 二十一名参加

宮城大学看護学部講師、三木明子先生、家族看護研究所所長、渡辺裕子先生からは、年々レベルが上がってきていて、次回が楽しみというコメントを頂いた。

ボランティア活動で 手作りひな人形

二月末〜三月三日までの間、外来待合ホールにてボランティアさん手作りのひな人形が飾られた。



駐車場舗装工事 行われる

二月十一日〜二十七日にかけて患者さん駐車場の舗装工事が行われ、駐車場が使いやすくなった。

シャトルバス 運行始まる

平成十二年一月十日より、透析患者さんを対象として君津病院と木更津クリニックの間でシャトルバス運行が始まった。君津駅、木更津駅、巖根駅を経由し、君津病院、木更津クリニックからそれぞれ一日二本ずつ運行されており、約二十名の利用がある。

外来診察の変更

四月より、泌尿器科が土曜日の午前に加えて月曜日の午後追加となった。又、本田三郎先生の循環器科が水曜日から土曜日、高田真行名誉院長の肝臓病外来が土曜日から水曜日へ変更となった。

◆診療時間(平均)調査結果

単位(分)		在院時間	
受付 診察開始	診察終了 診察終了	診察終了 会計終了	
平成11年3月	31.8	9.7	60.6
平成12年3月	33.7	12.4	54.6

外来診療時間調査実施

早く慣れ、良い仕事ができるよう指導する側も、される側も双方が真剣に取り組んでいた。

安全対策にこころの取り組み

(その2)

医療の安全対策が広く問われている昨今、その取り組みは必要不可欠なものとなっています。当院での医療事故防止や安全対策の取り組みについて、前回、高田名譽院長に「医療と安全」と題し解説していただきました。今回は第二回として、浜名儀一弁護士に、インフォームドコンセントの重要性等、今医療に求められていることについて、弁護士の立場から解説していただきました。また加藤正久病棟医長に、当院の安全対策委員会の活動について解説をお願いしました。

医療事故を防止するために

弁護士 浜名儀一



通常、保険診療では、患者さんは健康保険証をつけて診療申込書に書き込んで提出し、病院がこれを受けて診療契約が成立します。

診療契約の内容は、患者さんの症状によって多様であり、流動的でもあります。そして、この診療契約という一種の約束の大事なポイントは、医師

は患者さんに対し病気を診察、治療することを約束するに止まり、これを治療させることまで約束していないということ。換言すれば医師は患者さんに対し誠意診察、治療すればよく、結果についてまで直ちに責任を負うことは約束していないことになり、これは医師だけではなく、看護師、技師等医療従事者にも共通です。

昨年十月の講演で幾つかの医療過誤の事例を挙げましたが、これらは医師や医療従事者が誠意問診や検査を行うことを怠ったため間違った治療をしたり、正当な理由もなく治療を断ったりして手遅れとなった事例が大部分であり、医師の説明義務と

要するに医師や医療従事者が誠実に治療を行わなかったケースなのです。ところで、医療は医師が患者さんに対して施すという一方的な行為ではありません。医療は、医師と患者さんの協同行動によってその目的が達せられるのです。患者さんは医師に対し病状やその経過について十分説明し、医師は適確な問診や検査等により、正しい診断をなし、それに基づいて医療行為を行わなければなりません。特に、手術のように患者さんの身体を傷つけるような医療や投薬、注射等についてはその必要性や治療方法、その有効性や危険性等について十分説明しなければなりません。これを医師の説明義務と

言います。また患者さんから見れば、そのような医療を受けるかどうか選択する自由があり、納得した上で治療や手術を受ける権利があります。これを患者さんの自己決定権と言います。十分な説明をせずに「手術によりどのような事態が生じて一切の異議を述べない」というような一片の書面に、患者さんや御家族に署名捺印をさせただけではどの様な事態が起こっても医師は直ちに免責されると考えるのは大きな間違いです。ここで大切なのは、患者さんと家族を納得させるに足る十分な説明とその記録です。

万が一医療とその記録側にミスがあったときは直ちにその原因を説明し、謝罪すべきは謝罪し、患者さん協力のもとに事後の対応を速やかにすべきでしょう。また、医師は患者さん及びご家族への説明（病状及び治療に関する）をはじめ診察所見や治療経過を投薬、注射等の処置と共にカルテに、看護師は看護記録等にそれぞれきちんと記録しておくことが、患者さんにとっては勿論のこと、医療側にとってもきわめて大切なことなのです。

安全対策委員会の活動

病棟医長 加藤正久



安全対策委員会は、昨年四月に発足した委員会です。当院においては、以前から看護部門において事故事例の検討が行われていたが、それを発展させる形で、病院全体の取り組みとして委員会を発足させました。構成メンバーは、委員長として病棟医長が担当し、副委員長には手術部長、各病棟から一名ずつの委員のほか、薬局、放射線科、検査科、栄養科、臨床工学科の各部門からも委員を選出しています。

安全対策委員会は、昨年四月に発足した委員会です。当院においては、以前から看護部門において事故事例の検討が行われていたが、それを発展させる形で、病院全体の取り組みとして委員会を発足させました。構成メンバーは、委員長として病棟医長が担当し、副委員長には手術部長、各病棟から一名ずつの委員のほか、薬局、放射線科、検査科、栄養科、臨床工学科の各部門からも委員を選出しています。

1. 注射器の取り扱い事故を予防するため、色違い注射器を導入
2. 手術患者の取り扱いを防止するため、患者認識ベルトを導入
3. 輸液ポンプ事故を起す可能性のある旧式のポンプを、新しいものに変更
4. 今まで使用していた事故報告書の見直しと改正
5. 職員安全教育の一環として、講習会を開催

委員会は月一回、定例会を行っています。この委員会の最大の目的は、医療事故を無くすることですが、ただ委員会を開いても事故が防止できるわけはありません。患者間違い事故や注射間違い、輸血ミス等の医療事故がしばしばマスコミに取り上げられますが、幸い、当院では今までに大きな医療事故はありません。しかし今後も医療事故を起さないように、事故の分析を詳細に行い、再発予防の具体的な

6. 安全に対する意識に関して、全職員を対象にアンケート調査を実施
- 今後の予定として、輸血に関するマニュアルの作成と、新人に対する安全教育を継続的に行っていきます。

第四回接遇セミナー開催

ホスピタルマナー委員会

第四回接遇セミナーが、一月十三日ホテル千成において開催されました。今回はDグループ・医局合同の主催による「男性のマナーVS女性のマナー」というテーマで講師には岩下宣子先生をお迎えして行われました。

セミナーは二部構成で行われました。前半は結婚式のマナーで、結婚披露宴を想定して、服装やテーブルマナーについて岩下先生のコメントを交えながら進められました。セミナーに参加している全員が結婚披露宴の出席者になったつもりで実践しながら学ぶ事ができました。後半では、職場でのマナーについて、ある部署での出来事

や、男性職員から見た女性職員のマナーと女性職員から見た男性職員のマナーについて寸劇し、参加者からインタビュ形式で意見を求め、岩下先生からアドバイスを頂く形で進められました。男性のマナーと女性のマナーというテーマでしたが、マナーの基本は男性も女性も一緒である事、常に相手の気持ちを考えながら振るまう事が基本であることを学びました。今年度最後となったセミナーは、食事をしながらのスタイルで、内容もこれまで



結婚披露宴を想定した接遇セミナー

接遇セミナー講師 岩下宣子先生からひとこと

病院からマナー研修をというものはよくあるのですが、女々堂看護病棟さんのように院長先生や看護部長、事務局長の皆さんが一丸となって取り組んでいる病院は初めてです。マナー研修と言っても、一〜二回で終わってしまう所がほとんどですが、もう四年のおつき合いになりますでしょうか。院長先生は帝国ホテルのサービスを病院でできるようにとおっしゃいますが、ハートの面では、「帝国ホテル」を越えていると思います。今後は、そのハートをどう患者さんにとって心地よく、上手に表現しているかという点ではないでしょうか。

人間的に一番大切な思いやりの気持ちもそういうなかで育っていくのではないのでしょうか。先日茅野院長から次のような話を伺いました。思いやりは訓練で育ちます。玉磨かざれば光なしです。玉でなくても石ころでもみがければ光ります。「何事も本気になつてやるのが大事です。ホスピタリティの語源は思いやりや心配り、病を持つ人に対する思いやりです。どんなサービスも愛情なしには生きてきません。患者さんには、いつでもどんな人にも御自分が一番愛している人、大切にしている人に接するよう接してあげてください。そして看護病棟さんの一人一人に院長先生のお考えが浸透することを願っています。

委員会紹介

当院の主な委員会を紹介します。

新聞委員会

茅野院長を編集責任者とし、委員長・副委員長他、現在13名で活動中。職員間の情報交換や、地域の方に当院の地域医療に対する姿勢などをアピールする新聞「ヒューマン」を発行。委員会は、年4回の新聞発行に合わせて随時開催。

栄養管理委員会

城之内栄養科長を委員長とし、副院長・事務部長・看護部長・看護部各部署代表・栄養士で構成。給食業務の改善向上と円滑な遂行のため、また、給食に関する基本事項について研究・調査・審議することを目的とする。定例会は、毎月第3木曜日に開催。

薬事委員会

荻野診療技術部長を委員長とし、病院長・診療技術部副部長・病棟医長・看護部長・事務部長・薬局長・次長・主任で構成。医薬品の選定・購入・配布および施用等の適正化をはかり、あわせて薬品予算の効率化を期することを目的とする。定例会は、奇数月の第2月曜日に開催。

ホスピタルマナー委員会

茅野院長を委員長とし、副委員長・事務局・各部署より選出された委員で構成。病院における接遇向上を目的とする。定例会は、隔月の第2木曜日に開催。その他に、各種セミナーの開催など、広く職員に接遇向上の普及に努めている。

広報委員会

高田名譽院長を委員長とし、他8名の委員で構成。地域に根ざした病院としての広報活動を企画・推進することにより、満足いく医療を患者さんに提供していくことを目的とする。定例会は、毎月第4木曜日に開催。

治験審査委員会

杉村薬局長を委員長とし、副委員長・委員で構成。治験の審査等を行うことを目的とする。委員会は、必要に応じて随時開催。

幹事会

年度毎に、幹事長・副幹事長・会計・その他各部署より選出された委員で構成。会員相互の親睦融和を図り、会員の不慮の事態に際しては、相互に扶助することを目的とする。病院行事の企画・伝達・運営を行う他、会員の慶弔に際して会則に基づいた手続きを遂行。幹事会は、病院行事の前後に必要なに応じて随時開催。

衛生委員会

武部副院長を委員長とし、産業医茅野院長・衛生管理者武部副院長・山口部長他委員10名で構成。労働者の安全作業環境の整備と措置、健康管理を行う。定例会は、毎月最後の週の金曜日に開催。

安全対策委員会

加藤病棟医長を委員長とし、各部署の代表で構成。医療事故防止や安全対策として①潜在的事故事例の検討と事例記録の集積、②安全工学的対策の立案と実施、③安全管理技術の徹底教育等に取り組んでいる。定例会は、毎月第2木曜日に開催。

病院研究発表委員会

茅野院長を責任者とし、委員長他現在13名の委員で活動中。年に一度の病院研究発表会の開催のために、実行委員として企画・宣伝・運営にあたる。さらに特別講演の設定等、地域の医療従事者に研究発表の場を提供するための準備に余念がない。委員会は、必要に応じ随時開催。

倫理委員会

高田名譽院長を委員長とし、病院管理者で構成。病院内の倫理に関する事項の取り決めや遂行に努めている。委員会は必要に応じて随時開催。

接遇セミナー講師 岩下宣子先生からひとこと
病院からマナー研修をというものはよくあるのですが、女々堂看護病棟さんのように院長先生や看護部長、事務局長の皆さんが一丸となって取り組んでいる病院は初めてです。マナー研修と言っても、一〜二回で終わってしまう所がほとんどですが、もう四年のおつき合いになりますでしょうか。院長先生は帝国ホテルのサービスを病院でできるようにとおっしゃいますが、ハートの面では、「帝国ホテル」を越えていると思います。今後は、そのハートをどう患者さんにとって心地よく、上手に表現しているかという点ではないでしょうか。

人間的に一番大切な思いやりの気持ちもそういうなかで育っていくのではないのでしょうか。先日茅野院長から次のような話を伺いました。思いやりは訓練で育ちます。玉磨かざれば光なしです。玉でなくても石ころでもみがければ光ります。「何事も本気になつてやるのが大事です。ホスピタリティの語源は思いやりや心配り、病を持つ人に対する思いやりです。どんなサービスも愛情なしには生きてきません。患者さんには、いつでもどんな人にも御自分が一番愛している人、大切にしている人に接するよう接してあげてください。そして看護病棟さんの一人一人に院長先生のお考えが浸透することを願っています。

シリーズ”病気を考える“ 肝臓癌の治療

27

診療技術部 副部長 大崎慎一



肝臓癌とは?

肝臓癌とは肝臓にできる悪性腫瘍のことです。広義には肝細胞そのものから発生する原発性肝臓癌のみならず、他の癌が肝臓に転移した転移性肝臓癌や、肝内胆管癌なども含まれますが、ここでは原発性肝臓癌(以下肝臓癌)のみに絞ってお話したいと思います。

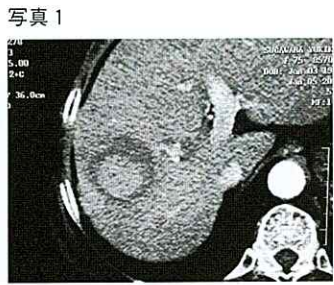


写真1
まず肝臓の写真をみてください(写真1)。このように、肝臓の中にできた異質の肉の塊が肝臓です。これを放置するとどんどん大きくなって、肝臓を壊して肝不全になったり、他の臓器に転移して全身病になったりして人の命を脅かすわけです。そうならないためにもっとも大切なことは、小さいうちに見つけることです。以下に述べるように肝臓はいくつかの他の癌と違った特徴があります。これを活用して、できるだけ早く見つけて手を打てば手遅れにならずにすむわけです。

まず肝臓の写真をみてください(写真1)。このように、肝臓の中にできた異質の肉の塊が肝臓です。これを放置するとどんどん大きくなって、肝臓を壊して肝不全になったり、他の臓器に転移して全身病になったりして人の命を脅かすわけです。そうならないためにもっとも大切なことは、小さいうちに見つけることです。以下に述べるように肝臓はいくつかの他の癌と違った特徴があります。これを活用して、できるだけ早く見つけて手を打てば手遅れにならずにすむわけです。

肝臓の特徴

(1) 肝臓はその発生をある程度予測することが可能です。もう少し正確に言えば、肝臓になりやすい人は症状が無くても定期的に検査することによって、大きく前に発見できるわけです。私はこれをもっとも大切なことと考えています。では肝臓になりやすい人とはどのような人でしょうか。それは原因を問わず肝硬変の方としてC型やB型の慢性肝炎の方で、特に血小板の少ない方は要注意といわれています。これらの病気を所持の方は、四ヶ月に一回は肝臓を対象としたスクリーニング検査を受けることをお勧めします。

肝臓の治療方法

ここに少し肝臓治療の実例を挙げてみたいと思います。血管造影検査(写真2)を行いながら、肝臓に直接抗がん剤を投与し、血管をつまらせることによって壊死に陥らせる治療法がTAEで、化学塞栓療法とも言います。TAEをおこなうことで写真3のように肝臓はCT上白く変化し、薬物は肝臓だけを選択的に傷害します。以前は肝臓全体に薬を入れていたましたが、マイクロカテーテルなどの血管造影技術の進歩で、できるだけ腫瘍の近くだけに薬の注入が可能になり、肝臓のダメージも最小限におこなえるようになりました。

(2) 肝臓は他所の臓器に転移しにくいので、速いうちに見つけて局所を処理すれば治る可能性ががあります。そして大きさが小さいほうが治療成績もよいので、やはり、定期検査による早期発見が重要です。

(3) 肝臓は時間的、空間的に多発することがあります。特にC型肝硬変では、肝臓がいろいろなところに次々と発生することがあります。ですから、全部手術で取っていくと、肝臓がなくなってしまうため、手術以外の方法を病状に応じて組み合わせる治療を進めることとなります。

以上肝臓の特徴と、定期検査の重要性がわかりただけだと思えます。次に具体的な治療方法についてお話ししたいと思います。肝臓の患者さんはどうしても肝臓そのものに肝硬変などの病気があつたため、そのことを考えて治療しないといえませんが、この場所のがん細胞はすべて死んでしまっています。大きさが3cm以下であれば、手術と同等の治療効果があります。何度でも繰り返しおこなえること、肝臓にほとんどダメージを与えないことが特徴です。この治療法の応用として、マイクロ波凝固や酢酸注入療法などがおこなわれています。

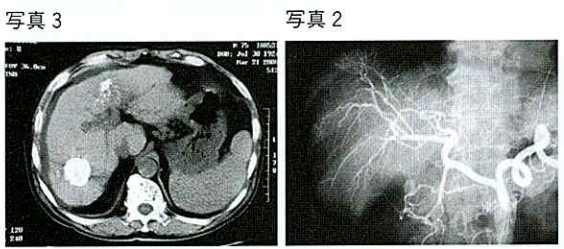


写真2

写真3

つぎに超音波断層装置で肝臓内を観察しながら肝臓に細い針を刺し、無水エタノールを注入して変性壊死に陥らせる治療法がPEIT (Percutaneous ethanol injection therapy) です。写真4はPEITの実例で、施行後に肝臓は変性壊死となりCT上黒く抜けていますが、この場所のがん細胞はすべて死んでしまっています。大きさが3cm以下であれば、手術と同等の治療効果があります。何度でも繰り返しおこなえること、肝臓にほとんどダメージを与えないことが特徴です。この治療法の応用として、マイクロ波凝固や酢酸注入療法などがおこなわれています。

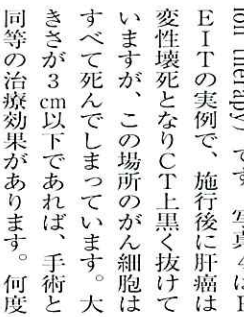


写真4

最後に手術は癌を肝臓の一部ととも摘出する肝切除術が主流です。以前は大手術だった肝切除術も、現在では機械や手技の進歩によって安全に行えるようになりました。確実に病巣を摘出できるため、肝切除術は、適応さえ選べば今でも最もすぐれた治療法ですが、進行した肝臓に対する最終手段としては肝移植しかありません。日本ではまだ充分におこなえていませんが、将来肝臓移植が普及すれば、肝臓の治療法が大きく変わる可能性があります。

いろいろな治療法をあげましたが、どれが一番優れているなど比較できるものではありません。一番大切なことは、個々の患者さんの病状に最も適した治療法を選択し、かつ組み合わせる治療することであると私は考えています。(以上すべて当院症例)

趣味の欄

ホノルル・マラソンの魅力

3A病棟 大滝典子



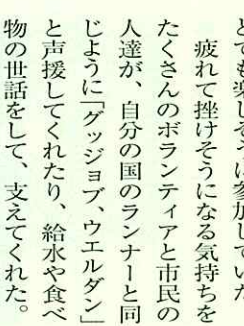
フィニッシュ記念撮影

朝五時、夜も明け切らない大空に花火が上がると二万人のランナーがゾロゾロと出発する。暗かった風景もダイヤモンドヘッドに差し掛かる頃には明るくなり、左手にはゴツゴツしたダイヤモンドヘッド、右手にはワイキキの青い海と白い波が眼下に広がり「ハワイに来たんだな」と感慨にふけりながら走った。ダイヤモンドヘッドを過ぎると、ワイキキビーチ沿い

とであると私は考えています。(以上すべて当院症例)

退任医師のことば

白鳥昌利



平成十年四月に当院にて働かせていただくようになってからあっという間の二年間でした。東京にて学生時代を過ごした私が、夜の暗さと星空の美しさに驚いていたのが昨日の様に感じられます。それ以上に驚いたのは疾患一つ一つの個性です。同じ疾患でも患者さんの顔が違ふようにそれぞれ個性があり毎日新しい発見と驚きの日々でした。

この度、人事異動のため再び大塚病院に勤務することとなりました。「先生を頼りにしています。これからよろしくお願ひします。」

玄々堂スキー旅行に行ってきました

H・I



追伸

去る二月十二日より三泊四日、岩手県、安比スキー場でスキー研修旅行を行ってきましたので、報告いたします。日ごろから行いのよいメンバーばかりで、天候にも恵まれ、ゲレンデでは皆さん童心に返り、その表情は普段見たことのないほど生き生きとしていました。二日目の夜は武部副院長の提案である海鮮鍋をみんなで囲み(君津から材料、道具を送って作りました)、これがまた最高においしく、言葉では言い表すことができないほどでした。(私は、大根おろし担当でした) 夜は温泉につかり、心身

と行って下さった患者さんに対しては後髪が引かれる思いです。人生は旅のようであり、旅には常に新たな出会いが待っている。出会いがあれば新たな発見や成長がある。私は二年間玄々堂君津病院にいて多くの事を学び、多くの喜びを与えられたような気がします。人生にはいろいろな偶然があるように感じられます。もしかしかならば職員の方々や患者さんと働いたり再会する事があるかもしれません。そのときまでお元気で。



荻原 崇

先日、私が担当していたある患者さんが元気に退院していきまし。退院の時、その患者さんは私にこう言ってくれました。「先生に命を助けてもらったよ。」この仕事をさせていただいたこと、この一年間の中で、何度となくこの様な事を感じました。これはいつも適切かつ鋭いアドバイスをして下さる当院の先生方、患者さんの立場でいろいろと考えてくれる看護婦の皆さん達、その他当院のスタッフの方々に私が支えて頂いていたお陰だと思っております。

この四月から私は大塚病院に戻り、二年後は臨床を離れ、研究をする事になっていきます。これから当院で一年間経験した事を忘れず、外科医のはしくれとしてがんばろうと思っております。皆様ますますのご発展とご健康をお祈り申し上げます。一年間有り難うございました。

新入職員紹介



看護婦 赤羽 千穂 下田真砂美 盛田 由美 石松ひとみ 幡手 紫織 鈴木 沙織 綾部 桂子



看護助手 柴田 純子 小林 好信 内川 春美 篠原かおり 吉田 絹子 吉沢 啓代 山上 聡子

◆新任医師紹介

長谷川 誠 生年月日 昭和四十三年七月五日 家族 妻一人 子供一人 趣味 鉄道写真撮影



はじめまして。四月から玄々堂君津病院にお世話になることとなりました長谷川です。どうぞよろしくお願いたします。

私が研修医であった二年間は当院手術室長の永島先生にご指導いただきました。当時永島先生には

「トイレ以外は俺から離れるな。患者の具合が悪い時はすぐに連絡するように」とはじめに教えられ、夜中に何度も患者さんの事で電話をし、永島先生を睡眠不足にさせていた記憶があります。私も永島先生同様、話を大げさに面白くする傾向があり、よく教授に「長谷川の受持患者の状態を永島先生経由で報告されると実際の状態は話を何割引いて考えればよいのかわからん。」と言われました。

こんな私ですが、元氣と熱意をかわれ玄々堂君津病院にお世話になることとなりました。みなさんどうぞよろしくお願いたします。 ※同じく四月より勤務の荒井武和医師は次回に紹介致します。

臨床検査技師 薬剤師 事務 クラーク 看護助手



前川 理枝 徳光 愛 山口 佳菜 篠崎美由記 千艘美寿々 藤田 祥子 榎本 妙子 金 奈々子 竹松 恵 清水さゆり

保育士 調理員 調理師 管理栄養士 放射線助手 臨床工学技士



宮岡 文佳 斎藤 恵 小西 芳香 小泉 真弓 鈴木千恵美 山中 裕司 茂田 妙子 長谷川知美 松井 照典

◆新幹事紹介

幹事長 宮本弘幸



このたび平成十二年度互助会幹事を務めさせていただくことに

なりました総務課の宮本です。このような大役を仰せつかり、大変責任の重さを感じております。歴代の幹事長、諸先輩方のアドバイスを頂きながら、山口・石井副幹事に両脇からガッチリとサポートして頂き、新役員の皆さんと力を合わせていきたいと思っております。今年一年どうぞよろしくお願申し上げます。

◆新メンバー

副幹事長 山口 裕伸 石井 恵美

幹事 萩原 桂・遠藤 静子 高橋 文子・平野 真弓 芳村 智子・北原 則江 倉吉 百恵・高橋 悦代 財部由美子

永年勤続表彰者

20年

玄々堂君津病院 三浦 國男 小松美佐子 岩松 勝實 北原 則江 長嶋 克二

10年

玄々堂君津病院 西村 郁子 在原 明美 刈込 秀樹 伊藤ゆり子 岡 知佐子 杉谷恵美子 山下由起美 磯部みどり

玄々堂木更津クリニック 阿部美由紀

人事往来

医局 退任 白鳥 昌利 萩原 崇 新任 長谷川 誠 荒井 武和

看護部

集中治療室 中田 いと(2階病棟) 2階病棟 鈴木 明美(4階病棟) 3階A病棟 大滝 典子(4階病棟) 4階病棟 吉野由美子(3階A病棟) 西ユリエ(看護部長室) 脇崎 りさ(木更津クリニック) 透析室 小林 洋子(集中治療室) * () 内は旧所属部署

結婚

平成十一年 七月 村田 美紀(佐藤) 古志由紀子(小林) 九月 宮島 雅代(川崎) 高梨 征子(本尾) 十月 小林 優子(濱根) 白鳥 昌利 白鳥 紀子(杉本) 小林 洋子(石川) 米内山広恵(元吉) 平成十二年 一月 吉田 一郎 三月 山口とし子(石井)

赤ちゃん誕生

平成十一年 四月 佐藤まゆみ(陽登くん) 五月 西井 大輔(莉来ちゃん) 七月 広谷 知子(紋華ちゃん) 花田 美樹(佳蔵くん) 十月 平野 直美(紗衣ちゃん) 十一月 高野 秀子(誠也くん) 武田 和彦(優花ちゃん) 十二月 奈雲千賀子(和己くん) 平成十二年 一月 高梨 征子(海斗くん) 二月 有岡 政輝(瞳ちゃん) 三月 小林 優子(優雅くん) 岡 知佐子(健人くん)

おめでとうございます

編集後記

◆春の日差しに誘われて、そろそろ遠くへ行きたくなってきたなあ。すべてを忘れて... S・O ◆この春結婚退職？(ちがうちがう) M・I ◆三年目の春。今年も頑張るぞ。 T・T ◆春なのに... お金がない。愛がない。人恋しい... S・H

◆この春は映画で泣き、卒業式で泣き、結婚式で泣き、でも一番泣かされたのは... 花粉です。 Y・M ◆やっと春が来たのに、くしゃみ、鼻水、目がウルウル。もしかして... E・N ◆花粉症で毎日が辛いです。 M・M ◆花粉症もおさまり、いよいよ草野球シーズン到来。今年は優勝するぞ！ H・O

◆さわやかな季節、なんかボーっとしてしまふ... E・T ◆新入職員に三十三年前の我をダブラせて、年輪を数える。 M・Y ◆新聞委員として初めての活動でした。読む方が楽ですね。 W・M ◆今年も多くのの人に読んでもらえるよう頑張ります。 H・S ◆あれから九年。もう一度筆を握るとは思ってもみませんでした。此つて私のミレニアム記念？ N・S



今回のサブタイトル 今回のサブタイトルが世界の古城に変わりました。今回はフランスのシャンボール(Chambord)城です。 ロワール河沿いには七百近くの城が点在しています。その中で最大、かつ最も優美な建物とされているのがシャンボールの城です。 シャンボールはフランス中部の小村の名前でロワール河の支流、コンソンのほとりにあります。幅156m、奥行き117mの城は、総延長32kmの城壁に囲まれた広大な敷地、その大半は森で狩猟用に建築された城です。十六世紀後半、フランス国王フランソワ一世がイタリア・ルネッサンスの影響を受け、約三十年かけて建築、ルネッサンス様式の華麗な城です。また、レオナルド・ダ・ビンチのアイデアとされる二重螺旋階段も有名です。